

令和4年度第2回鶴岡市文化財保護審議会 会議概要

- 日 時：令和4年11月22日（火）9：00～
- 場 所：鶴岡市職員研修会館
- 次 第
 - 協議事項
 - （1）文化財の指定について
 - 報告事項
 - （1）文化財関連事業について
 - ・東田川郡役所、郡会議事堂等について
 - ・鶴岡市民俗芸能交流発表会等
 - ・鶴ヶ岡城跡二の丸大手前馬出石の活用整備
- 出席委員 渡曾俊正、植松芳平、酒井英一、本間豊、小野寺良寛、野堀嘉裕、柴田和彦、渡部幸、上野由部、佐藤靖法
- 市側出席者
市教委 布川教育長、本間教育部長、沼沢社会教育課長、五十嵐文化財主幹
眞壁課長補佐、松田主査、難波専門員、大場専門員、加藤主事
- 公開・非公開の別 非公開
- 非公開の理由 会議の内容に個人情報が含まれること。また経過を公表することができないものがあるため。

○ 会議内容

1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 協議事項

(1) 文化財の指定について

◆内容

鶴岡市指定文化財（史跡）の指定にかかる経過説明。（柴田委員、事務局）
現地視察及び協議。

◆質問意見等

[委 員]百石取の武家住宅がどのような敷地にどのような住まいを建てていたか、当時の生活を垣間見ることができることから、ぜひ後世に残してもらいたい。

[委 員]建物については、文化財指定の重要性や意義は十分ある。昭和初期に日本に持ち込まれたメタセコイヤが生えていたり、モミジやツバキなどの通常は武家屋敷には植えないと言われる木が入っていたりするのが気になる。篠竹という釣り竿にした竹が残っていて、価値が非常に高いかもしれない。でも、孟宗竹が隣家からどんどん侵入してきているので、今後の対応が課題になる。

[委 員]江戸時代の鶴岡の城下を伝える文化財として皆で知恵を出し合いながら未来につなげていくべき。

[委 員]茅葺屋根が崩れてきているので、早めに手当しないと大変なのではないか。

[委 員]城下町であることを示すものとし現在もあるということの意義・重要性がある。

[委 員]現地を見学し、現代とは別の空間を体感し、我々の歴史がつながっていることを感じられるだけでも重要。

[議 長]意見を総括すると、文化財指定することは妥当と思われる。但し、メタセコイヤ等樹木の伐採ができるかどうかという課題もある。それは調書等に付帯することとして、市指定に向けて教育委員会に上程することとしてよろしいか。

[委 員]賛成

4. 報告事項

(1) 文化財関連事業について

- ・東田川郡役所、郡会議事堂等について

◆質問意見等

[委 員]明治27年の酒田地震の際、藤島の郡役所の対応が大変良かったとのことである。また、庄内に乾田馬耕という方法を広めたのも郡役所の力が大きいようである。このように東田川郡役所が地域に非常に貢献していたという歴史を普及していくべきである。

- ・鶴岡市民俗芸能交流発表会等

◆質問意見等

[委 員]民俗芸能保存会等で構成される協議会は、個別では難しいことが団体として動くことにより可能となるものがある。

・鶴ヶ岡城跡二の丸大手前 馬出石の活用整備

[委員]市民の方々に馬出遺構が出てきたことや金峯から切り出してきた石だということを知っていただければ一番良いと思っている。整備方法は、全国に様々な事例があるし、若手市職員が頑張っていることを尊重したい。

[委員]「ただ石を置いてあるだけ」にとられかねないので、うまく説明を付けてほしい。

[委員]これから100年経った時に、これが何なのかわかるように考えていただきたい。

[委員]馬出の石の存在が鶴岡公園とどういう関係にあるのか、馬出はどの位置なのか、看板の作り方も含めて、過去が未来につながるような表現をしてほしい。子ども達でも分かるように整備をお願いしたい。また、鶴岡公園の発掘調査を断続的にでも継続してもらいたい。

5. その他

◆質問意見等 なし

6. 閉会